

2022年5月31日発行

22-22号

（http://www.jremnant.com/）

現場から（最近のニュースから）

**根本的に変わらないこと**

蛍が飛ぶ季節になりました。「夏は夜。月のころはさらなり。やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。」と書かれている枕草子の夏の描写が思い浮かびます。この枕草子が、清少納言の随筆ではなく、「一条天皇の中宮だった定子の栄華を広めるためだったと見ています。ここ２０～３０年でほぼ通説になりました」と、土方洋一教授（青山学院大）が言われていると朝日新聞の天声人語にありました。

枕草子の内容を分析して、なにが書かれていて、なにが書かれていなかったかを見たところ、どうやら、エッセイではないと分かってきたそうです。中宮の定子の聡明さや優雅さには、ことばを尽くしているのに、父の死、兄の左遷、定子自身の宮中での孤立などの苦難、そして、24歳という早すぎる死については書かれていないということです。また、有名な「春はあけぼの」で始まる章段も、清少納言の私的な感懐ではないだろうということです。たぶん、季節をお題に定子がサロンを開き言葉遊びをしたベストアンサー集ではないかと言われています。もし、清少納言という女性のエッセイならば、定子の急逝とともに、まったく書かなくなってしまうことはないだろうということです。たぶん、エッセイストなら、すべて書きつくしたはずだと。それゆえ、この作品は「現代ふうに言うなら、並外れて有能な公務員による広報誌だったということか」と言われ、「腕利き広報官の奮闘いとをかし。」と結んでありました。(5月30日天声人語＜広報官いとをかし＞より)

ここ20～30年で、清少納言の随筆ではなく、広報誌だったと変わったそうですから、だいたい中学校で「春はあけぼの」と習うので、たぶん40歳以上の人は、清少納言の随筆だと覚えているでしょう。そう考えると、過去のものは、ほんとうは違うことも多いのだろうなと思えます。だれの作品なのか、何の目的だったのか、それは研究によって変わるかもしれません。ことば自体も「いとをかし」は使われませんから、どんどん変わって来ているのは事実で、これからも変わるでしょう。しかし、人間の中から出て来る考え、感情は、根本的に変わりません。いつの時代も、人間にある問題、人との葛藤、病気や老い、生死に関する苦しみや悲しみなどは、まったく同じく続いています。その根本的に変わらずにある人間の問題について考えてみませんか。そうすれば、他のことは、どんなに違うように捕らえられても、かまわなくなるでしょう。自分の人生が後世にちがうように伝わっても、まったく構わないほどの、永遠に変わらずに残るほんとうの答えを見つけて、その答えの道を歩むことをごいっしょに考えてみませんか。

救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になり、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをして、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。

それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。

神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に出会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス･キリストです。イエス･キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してくださり(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(Ⅰヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス･キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。

もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス･キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス･キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを

認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の

神様として受け入れます。私の罪を赦してくださり、私を救ってくださったことを感謝

いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・

キリストの御名によってお祈りします。アーメン」

相談のある方は、いつでも連絡ください